

触法者を含む34名の障害者を雇用し、認定農業者として付加価値の高い花き生産に取り組むとともに、170を超える農業経営体から多種多様な作業を受託し、地域農業を支えている。

基本情報

- 所在地：福岡県久留米市
- 団体名：一般社団法人THE CHALLENGED
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023
準グランプリ「地域を耕す」
- 主力商品：電照菊、シンテッポウユリ、
仏花用花パック、施設外就労（農作業受託（花き、野菜、果樹など約40品目））
- 取得認証等：認定農業者



電照菊の施設栽培



博多シンテッポウユリ栽培

取組の概要

- 多種多様な受託作業及び付加価値の高い花き生産への取組により、利用者の適性と能力に合せて働き方を設定。
- 障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等の多様な人材が活躍できる環境を整備し、10名以上が一般就労に移行
- 作業内容、態度、能力、経験等を考慮した評価基準に基づく昇給制度を採用。
- 通年受委託の実証モデルを独自に確立。地域における障害者に対する理解が深まり、170を超える農業経営体から作業を受託。
- 農業改良普及センターと連携し、品目別作業を標準化しマニュアルを作成。



ブドウ袋掛け



イチゴ管理作業



レタス片付け



キャベツ収穫

体制図

一般社団法人THE CHALLENGED
(更生保護協力雇用主)

- ・就労継続支援A型 K'sファーム
- ・就労継続支援B型 K's bee

- ・福祉・医療 関係
- ・更生保護 関係
- ・県・市町（福岡、佐賀）
- ・特別支援学校
- ・大学（保育・福祉・農業）
- ・県内JA 農業普及指導センター

連携

出荷

・市場（共撰共販出荷）

JAふくおか八女花き部会所属
↓（選別業務委託）

他社会福祉法人就労継続支援A型
フラワーパッケージセンター

・量販店・直売所等（個人出荷）

・農作業受託（施設外就労）

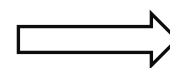
農業者・農業団体・JA
(契約者数 約170件)

施設外就労

取組の成果

- 昇給制度を採用することで利用者等の責任感、やりがい、モチベーションの維持に繋がり、平均賃金月額が大幅にアップ。
- 地域の荒廃農地を借り受け、規模拡大と障害者等の就労機会の増加により、農業関連の売り上げが増大。

	取組当初
・A型平均賃金月額 (円)	56,000
・農地面積 (a)	10
・農業関係収入 (万円)	9



令和5年 (見込み)
110,000
100
4,700

所在地 ▶ 福岡県久留米市野中町字宮園727番地の5

連絡先 ▶ TEL:0942-80-2729

E-mail:ksfarm@thechallenged.jp

ウェブサイト ▶ <https://thechallenged.jp/ksfarm/index.html>

【取組のプロセス】

「農業を基盤とした就労困難者の就労支援」を行うことを目的として活動をスタート

平成22年

きっかけ

農家として農業を営む中で、平成22年に八女市福祉課を通じて福岡保護観察所保護観察官から要請を受け、知的障害のある青年の更生保護を開始

平成24年

一般社団法人を設立し福祉に参入
法務省保護局が所管する協力雇用主に登録

一般社団法人THE CHALLENGED設立

- 平成24年、一般社団法人を設立。法務省保護局が所管する協力雇用主に登録。
- 福岡県ソーシャルファーム雇用推進連絡協議会に参加（法務省主催）。

平成27年

委託契約数は100件を超え、収益が大幅に増加

就労継続支援A型事業所「K'sファーム」を開設

- 輪菊の電照施設栽培を開始。農業と福祉、両方の知見を持つ職員の育成に取り組む。
- 施設外就労を開始。県内のJA、農業者、県農業普及指導センターと連携を図り、受注体制強化に取り組む。平成27年には通年受委託の実証モデルを独自に確立。現在、農作業の委託契約をしている農業経営体の数は170件を超える。
- 平成29年、博多シンテッポウユリの試験栽培を開始。翌年には苗の育苗にも挑戦し、荒廃農地を借り受け規模拡大。県内における最大の生産を担い花きの産地の維持拡大に貢献。
- 平成30年、JAふくおか八女花き部会に所属し、認定農業者として認定。
- 規格外品を直売所やスーパー等で販売することで出荷率は9割を超え収益が増加。

平成29年

生産面を強化
JAふくおか八女花き部会に所属し、認定農業者として認定

令和2年

A型事業所のスコア合計点は170点以上となった

受入れの拡大と連携を強化

- 令和2年、就労継続支援B型事業所「K's bee」を開設。
- 農業普及指導センターと共に、品目別作業の標準化とマニュアルの作成に取り組む。
- 協力雇用主として福岡県及び佐賀県内の刑務所が開催した農福連携意見交換会、矯正展への出店、保護司会主催の勉強会や協力雇用主との交流会に参加。

今後の展望

更なる利用者の所得の向上を目指し、地域農業の担い手として、地域ニーズに対応した事業展開に取り組む

“誰もが共に働き 共に支え合える社会の実現”を目指して

- 誇りとやりがいの持てる職場として、農業に従事できる環境と機会を創造し続ける。
- より重度の障害者の就労を図るため、新たな農作物の生産に取り組む。
- 高齢農家からの要望と利用者の所得の向上を目指し、今後も農地面積を拡大する。
- JA部会全体で高品質安定生産をすすめ、作型を分散することで規模の拡大、収益性の確保等を図り、更なる共撰共販体制を整え出荷を行う。



輪菊の芽摘み



（施設外就労）

ほうれん草の収穫

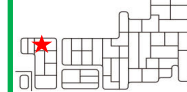


シンテッポウユリ収穫



（施設外就労）

小松菜出荷補助
（就労継続支援B型事業所）



障害者福祉事業を行う中で、障害者を企業の戦力として定着させたいという理念のもと、慢性的な人手不足に陥っていた水産加工会社を事業承継し、人手不足解消と障害者が戦力として定着する新たな分野を創出。

基本情報

- 所在地：福岡県福岡市
- 団体名：一般社団法人 社会福祉支援協会
- 選定表彰：令和2年 福岡市環境行動奨励賞（福岡市）
ノウフク・アワード2023
チャレンジ賞
- 主力商品：冷凍魚切り身（調理前）、冷凍魚フライ（調理前）、冷凍焼き魚（調理済）
- 取得認証等：有機JAS、ISO22000



冷凍魚切り身（調理前） 冷凍魚フライ（調理前） 冷凍焼き魚（調理済）

取組の概要

- 障害者の作業を箱折り等の軽作業から徐々に切身の加工など専門業務にスキルアップしていく仕組みを作るとともに、評価シートの導入でモチベーションアップを図り、7名の直接雇用（一般就労）を実現。
- 障害者の声に応え、作業場隣接エリアに休憩場を設けるなど就業環境の改善を図るとともに、分かり易い指示・手順（図や写真の掲示）を作成・活用し、職場に浸透しており、顧客からのクレームが年間比12%減少。



一般就労者への
技術継承



指示・手順掲示
（ローラー掛け、異物確認）

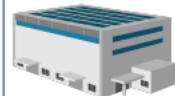


商品パック詰め作業の様子



福祉事業所・企業からの視察
（工場）の様子

体制図



2021年6月M&A
水産加工／福岡丸福水産



2020年1月M&A
食品加工／那珂川キッチン

- ・ 日々の施設外就労（利用者30～35名）
- ・ 施設外からの一般就労
- ・ 障害特性についての研修会

- ・ A型事業所売上に繋がる商品卸
- ・ 施設外就労の受入
- ・ 一般就労（雇用）の受入



就労継続支援A型事業所／5ヶ所
就労移行支援事業所／1ヶ所
共同生活援助／2ヶ所
通い制高校／1ヶ所

取組の成果

- グループ内障害者施設との連携により水産加工会社の人手不足が解消
- 障害の特性に合わせた作業分担を行うことで、離職が激減。
- 正確な切り身加工等の専門的業務において生産量／日が30%アップし、品質も向上。

	令和3年	令和5年 （見込み）
・ 施設外就労年間延人数	（人） 1,966	2,060
・ 一般就労者数（水産加工）	（人） 1	7
・ 施設外就労売上（水産加工）	（円） 9,106,757	24,891,483

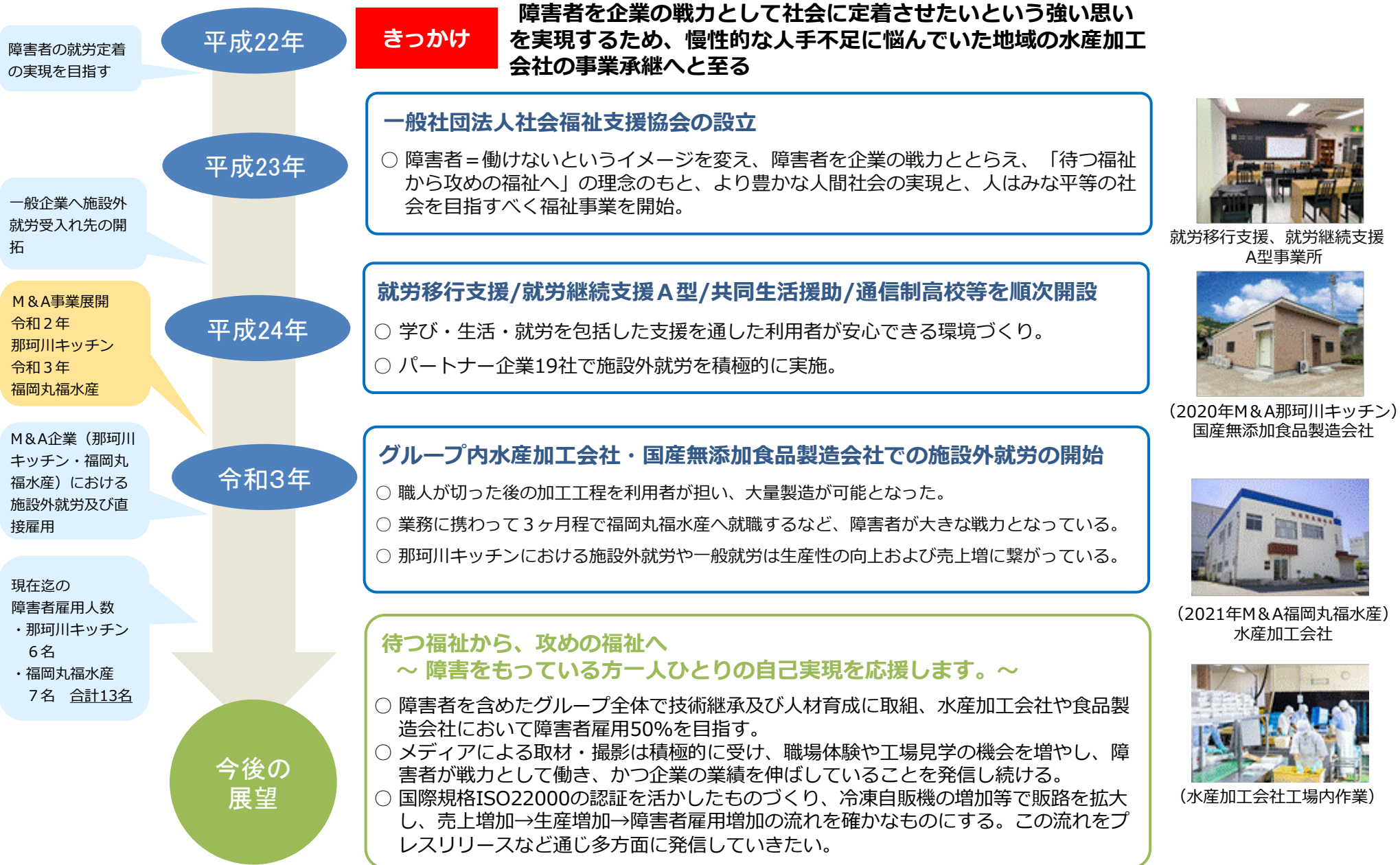
所在地 ▶ 福岡県福岡市博多区博多駅前2-17-25博多クリエイティブビル5F

連絡先 ▶ TEL:0120-888-545

E-mail:kanri@be-smile.net

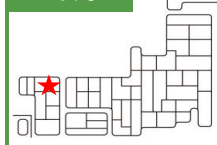
ウェブサイト ▶ <https://b-continue.co.jp>

【取組のプロセス】



JAの部会との委託契約により花きのパッケージセンターを運営し、地域農業の維持・発展に貢献。認定農業者となり、自社生産も実施。

福祉事業所

福岡県
八女市

きつかけ

H26年

継続的な仕事がなく、安価な作業しかない福祉側と慢性的な人手不足が課題の農家側が力を合わせればWin-Winな関係が築けると考え、農福連携の取組を開始。

人を耕す

- フラワーパッケージセンター(以下「FPC」という。)では、フラワーパッケージ作業・ファーム作業と障害の種別や特性に分けて作業を分散。1名は責任者として終日雇用。
- 就労継続支援A型事業所の給料は5年連続で向上。給料以外のハウスの建設・修理等の必要経費も福祉収入には一切頼らず就労支援事業費で支出し、安定した収益も確保。

地域を耕す

- FPCがあることで、農家は栽培に専念することができ、栽培面積の拡大につながっているほか、商品の検査体制の一元化により、農家間の選別のバラツキが無くなり、有利販売に寄与。
- 荒廃農地を購入し、ミディトマト、ガーベラ等の栽培に取り組んでおり、農地の維持に貢献。
- 八女市が主導する農福連携の部会にも参加し、地域の農福連携の推進にも貢献。

未来を耕す

- 福祉施設・JA・農家がタッグを組み、本来JAが運営するFPCを福祉施設が運営。
- 刑務所からの依頼で受刑者への農福連携の事例紹介や出所後の福祉サービスの情報提供を行うほか、放課後等デイサービスの児童を受け入れ、収穫体験等を実施。
- トマトの規格外品を使用したトマトソースを開発し、ふるさと納税の返礼品としてや、直売所等で販売。

基本情報

設立:H19年/農福連携取組開始:H26年

取得認証等: 認定農業者

取組

成果

概要

主力商品
(農作物)ガーベラ、テッポウユリ、トマト
(加工品)トマトソース

特徴的な取組

パッケージセンターを福祉施設が運営

社会福祉法人 ハイジ福祉会

- 就労継続支援B型事業所 八女作業所
- 就労継続支援B型事業所 第二八女作業所
- 共同生活援助 ぐるーぷほーむハイジ吉番館
- 就労継続支援A型事業所 フラワーパッケージセンター

※就労系全施設で農福連携に取り組んでいる。

TEL / 0943-23-1747

Mail / yame-sagyouso@ia4.itkeeper.ne.jp

平均賃金月額(A型)

60,527円(H26)
→88,070円(R5)

障害者数

4人(H26)
→16人(R5)

売上高(A型)

4,709千円(H26)
→45,352千円(R5)

農地面積

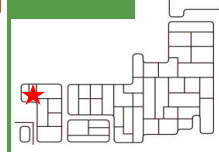
26.5a(R5)

- 就労継続支援A型事業所の利用者2名が高齢者施設への一般就労を実現。
- 農福連携に取り組む障害者を見て理解が深まり、農家やJAからの作業依頼も年々増加。
- トマト生産者全24名の中で、坪当たりの収量・販売高が1位となり、JA単独の評価でトリプルAの評価を獲得。
- FPCの運営により有利販売につながったことなどで、当初120万本程度であったガーベラが334万本まで増加。

農業者と障害者就労施設のマッチングやその後のフォローにより農福連携が県全域に拡大。農業者の理解促進やマッチングマニュアルの作成により中間支援の質を向上。

地方自治体

佐賀県



きっかけ

R3年

農業の担い手不足と労働力不足に加えてコロナ禍で障害者の就労が不安定化している中、令和3年度に副知事をトップとする「農福連携プロジェクト推進チーム会議」を設置・開催。

人を耕す

- 県農業経営課と県障害福祉課にコーディネーターを、県内6つの農業振興センターに農福連携担当者を配置し、JAと連携して福祉事業所と農家のマッチングを実施。
- 農福連携のコーディネーターが障害者に適した作業を選定し、作業時には一緒に作業をすることで、適切な支援・助言等を実施。

地域を耕す

- 地域の自立支援協議会就労支援部会やJAの生産部会等への定期的な研修や説明会を通じて、農業関係者と障害者就労施設の理解が深まり、良好なマッチングが促進。
- 県内に新たな協議会が発足し、農福連携の推進、中間支援の質の向上に寄与。
- 特別支援学校の教師、保護者、生徒への農福連携の理解促進に向けた取組を実施。

未来を耕す

- 県主導で中間支援体制を確立し、農家のニーズ聴取、作業内容の確認と単価の設置、マニュアル作成、契約書の作成、作業完了後の記録作成等、きめ細かな支援を実施。本スキームは他県の農福連携に取り組む協議会などにも共有。
- 県として農福連携技術支援者研修を開催し、専門人材を育成。
- 意欲がある農家に対し、JGAPや6次産業化の認証取得を支援。

基本情報

農福連携取組開始：R3年

取組

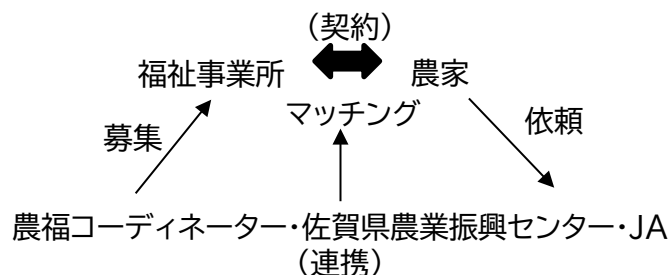
成果

概要

主力商品
(障害者が生産に携わっている農作物)
きゅうり、アスパラガス、みかん等

特徴的な取組
中間支援

体制図



参加農家

14戸(R3)
→39戸(R5)

参加福祉事業所

13事業所(R3)
→38事業所(R5)

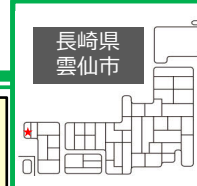
マッチング件数

25件(R3)
→67件(R5)

売上高

6,603千円(R5)

- マッチング後も農家と福祉事業所双方の信頼関係が深まるよう支援し、農家や利用者からも好評。
- 出荷調製等の作業を福祉事業所に依頼したことにより、品質向上、生産性向上に寄与。
- 「中間支援者のための農福連携マッチング推進マニュアル」を、県HPで公開。スキームが全国の農福連携に取り組む協議会・団体に共有され、中間支援の質の向上に貢献。



昭和53年入所授産施設「雲仙愛隣牧場」開設後、地域の主要な産業である農業（養豚、養鶏、肥育牛）中心の事業を開始し、多様な活動を通して障害者等の社会参画を実現。

基本情報

- 所在地：長崎県雲仙市
- 団体名：社会福祉法人南高愛隣会
- 選定表彰：
 - ・ H25 若雌 銅賞
(主催：全国和牛登録協会長崎県支部県南支所)
 - ・ H30 アスパラガス生産躍進賞
(主催：島原雲仙農業協同組合)
 - ・ R元 島原雲仙農協・3市和牛共進会若雌
一等二席 (主催：島原雲仙農業協同組合)
 - ・ R2 ノウフク・アワード2020審査員特別賞「人を耕す」
 - ・ R3 ながさき農林業大賞 特別賞
(主催：長崎県)
 - ・ R5 長崎県肉用牛改良増殖用優良雌牛に選定
- 主力商品：和 仔牛、対馬地どり、アスパラガス
- 取得認証等：－

取組の概要

- 比較的重度の障害者と触法障害者を中心とした体制で和牛の飼育に取組、仔牛の分娩から出荷までを実施。
- 長崎県に古来から存在する対馬地どりを県農林技術開発センターの協力を得ながら地元企業の委託により守り育て、都市部の高級ホテル等に販売する取組を実施。
- 農家の労働力不足への補完と工賃向上を目的として、アスパラガスのハウス栽培に取り組んでいる。



共進会で受賞の牛と

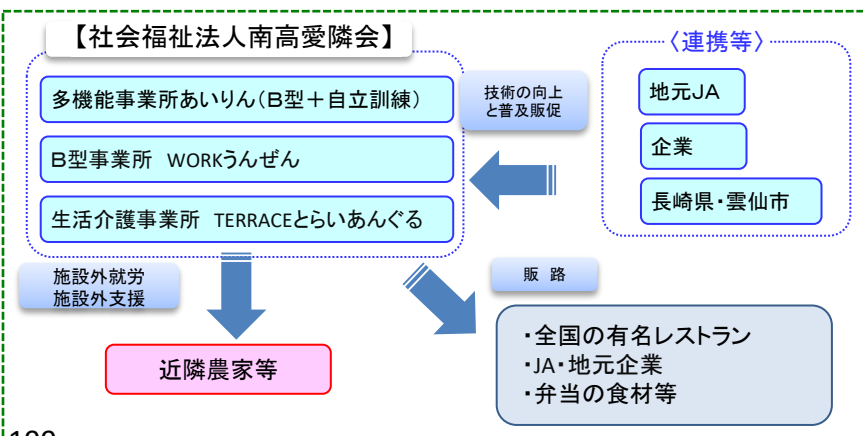


対馬地どりの雛の入雛



アスパラガス収穫

体制図



取組の成果

- 障害者等が、地元の農業分野における貴重な働き手となっており、派遣農家数及び派遣日数の増加により労働力不足の解消に寄与し平均工賃の増加を実現。
- | | 平成29年度 | 令和4年度 |
|----------|---------|---------|
| アスパラガス売上 | 3,210千円 | 7,771千円 |
| B型平均工賃月額 | 24,275円 | 34,068円 |
- 5年間
- 対馬地どり・和牛では地域での種の保存に貢献し、アスパラガスでは地元JAから表彰されることにより地域農業の活性化。

所在地 ▶ 長崎県雲仙市瑞穂町古部甲2504番地

連絡先 ▶ TEL：0957-77-3985 E-mail：m-uno@airinkai.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.airinkai.or.jp/>

【取組のプロセス】

大規模農家から農
作業の派遣依頼
(農家への施設外
実習)

昭和52年

きっかけ

地域の人手不足が深刻化し、大規模農家から労働力不足による派遣依頼があり、施設外就労を開始

昭和53年

入所施設「雲仙愛隣牧場」開設

- 昭和53年 入所授産施設「雲仙愛隣牧場」では地域の主要産業である農業（養豚・養鶏・肥育牛）中心の事業を開始。

牛肉の貿易自由化

平成元年

グループホームを複数開設（施設から地域への移行促進）

- 平成に入り、牛肉の貿易自由化による影響を鑑み、肥育牛から繁殖牛に切り換える。

障害者自立支援法
施行

平成18年

工賃向上を目的としたアスパラガスの本格栽培（ハウス）開始

- 平成30年地元「JA」から「躍進賞」を受賞するなど地域農業の活性化に努め、更に工賃向上に向け20aから28aへハウスを拡大。

・ 触法障害者支援
の開始

・ 本格的に県下で
事業展開

平成30年

雲仙から諫早・島原・長崎・佐世保地区への地域移行（ふるさと移行）後、本格的に県下障害福祉サービスで事業を展開

- 平成30年関係機関と協議による「長崎対馬地どり振興協議会」を立ち上げ、飼育技術の向上と普及に努める。
- 長崎県に古来から存在する対馬地どりを触法障害者が中心となって育て、都市部の高級ホテル等に販売する取組を実施。

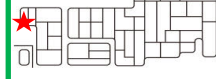
長崎対馬地どり振
興協議会立ち上げ

今後の
展望

市と連携し自立支援協議会就労部会にて他法人を巻き込んだ農家派遣のネットワークを模索

- スポット応援として地域の経験豊富な高齢者の採用（早期の収穫等）。
- 秋の収穫祭を地域住民と共同で開催し交流・親睦を深めており、そこから発展した地域での役務作業・地域防災や救急法等の開催につなげる。





平成15年に社会福祉法人を設立して以来、びわ茶製造を実施。自家農園での栽培に加え、近隣農家から仕入れた農作物を用いて加工品の開発・製造や、カフェレストランなどを運営。ECサイト「びわからMARKET」を開設し、販路拡大に向け取り組む。「焙煎びわ葉茶」は、ジャパンメイド・ビューティーアワード2023 インナービューティ部門審査員賞を受賞。

基本情報

- 所在地：長崎県長崎市
- 団体名：社会福祉法人出島福祉村
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022
ジャパンメイド・ビューティーアワード2023
(インナービューティ部門審査員賞)
- 主力商品：びわ茶、花苗、びわジャムなど
- 取得認証等：6次化事業者



びわ茶



びわジャム



焙煎びわ葉茶

取組の概要

- 平成15年就労継続支援B型事業所「三和ゆめランド」を開設し、地域の特産品である「びわ」の葉を利用したお茶の製造を開始。
- 福祉事業所として農業を営むとともに、地域農業者との連携により、農業の担い手不足の解消、生産の維持による地域の活性化に取り組んでいる。
- びわ茶（製品名：長崎ゆめびわ茶）以外に、直営農園や地域で生産される農作物を利用したびわジャムなど加工品の製造にも取り組んでいる。
- 地域社会との連携、障害者の自立支援を目的に、カフェ＆レストランKIZUNAの運営やECサイト(びわからMARKET)の開設など、積極的な取組を進めている。



就労継続支援B型事業所「三和ゆめランド」

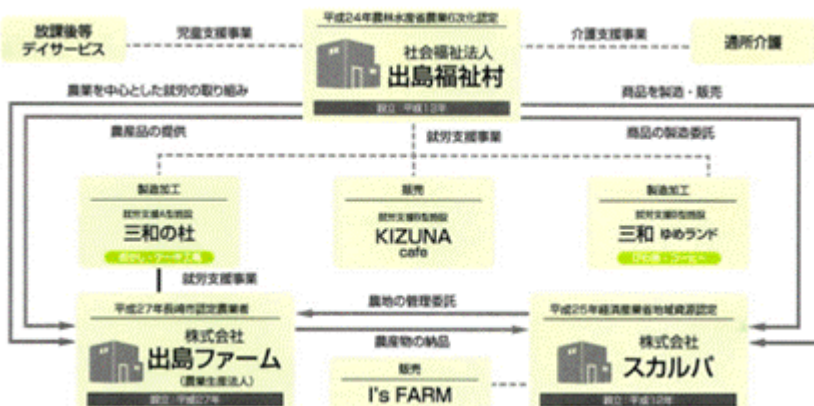


びわ葉の収穫



びわ葉の加工

体制図

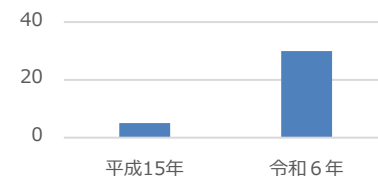


取組の成果

○ 令和5年現在、農作業を担う障害者就業者数は取組当初（平成15年）の5名から30名（令和6年）と20年間で6倍に増加。

○ 加工場、カフェレストランなどを含め、現在グループ全体で103名の障害者が就労。

農作業従事障害者数（名）



所在地 ▶ 長崎県長崎市岩川町2-3-5F

連絡先 ▶ 095-842-8222 E-mail : dejimafukushi2021@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://dejimafukushi.or.jp/>

【取組のプロセス】

働き手の減少
荒廃農地の増加
地域活力の低下

平成13年

きっかけ

農家の高齢化や後継者不足による、びわ畑の荒廃農地の増加と、びわの葉が廃棄されていることに着目。障害者の就労支援のために、それらを解決する方法を考えた。

平成15年

地域の特産「びわ」の葉を利用したお茶の加工を開始

- ・就労継続支援B型事業所「三和ゆめランド」を開設。
- ・地域の特産物である「びわ」の葉を活用したお茶（びわ茶）、花苗等の生産を開始。



びわの葉

花木苗育成事業
受託（長崎市）

平成19年

取組作物の拡大及び認定農業者の認定取得

- ・長崎市の花苗育成事業の受託に伴い、ビニールハウス3棟による花苗育成を開始。
- ・三和ゆめランドに直営農園を開設し、びわ600本、ざくろ50本、いちじく50本他を植栽。



ビニールハウス

平成25年

農産物直販売とレストランを開設

- ・グループ内で生産した授産品販売所やカフェレストランを開店。



カフェ&レストランKIZUNA

令和3年農林水産省
6次産業化事業計画
認定

令和3年

新商品の開発、ECサイトの開設により新たな販路の拡大

- ・地域の野菜などを用いた、新たな加工品レシピを開発
- ・新たな販路拡大を図るためECサイトを開設

農山漁村振興交付金
(農福連携対策)活用
(令和3～4年)

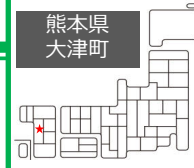
今後の
展望

観光農園の整備による、地域の活性化

- ・出島福祉村では観光農園の計画をすすめており、交流人口の増加、地域農産品の販売拡大、地元農家の所得向上を図るとともに、障害者の雇用確保、工賃・賃金の向上を目指します。
- ・障害を抱える方々が「安心して楽しく暮らせるグループホーム」の設立を目指しています。



観光農園計画



さつまいもを生産する農家として、新卒の障害者1名を雇用するとともに、町内の就労継続支援A型事業所と連携し、作業を委託することで障害者の就労の場を提供。

基本情報

- 所在地：熊本県大津町
- 団体名：株式会社なかせ農園
- 選定表彰：・H30 ビジネスコンテスト最優秀賞（主催：日本農業経営大学校）
・R3年度 熊本県農業コンクール新人王部門 優秀賞（主催：熊本県）
・R5年 日本さつまいもサミット
ファーマーオブザイヤー受賞
- 主力商品：青果品の「蔵出しベニーモ」、「むらさきベニーモ」、「半熟干し芋」etc
- 取得認証等：6次化事業者、認定農業者、GLOBALG.A.P.等



蔵出しベニーモ



半熟干し芋

取組の概要

- 13haのほ場でさつまいもを専作しており、量販店向け販売のほか、ふるさと納税でも販路を拡大。香港、シンガポールへの輸出（320万円：令和5年）にも取り組む。
- 特別支援学校の学生を職場実習で受け入れたのがきっかけで障害者雇用を開始。仕事の飲み込みが早く、収穫等の機械作業の補助も含め、多くの作業に対応。
- 苗床での苗切り、収穫したサツマイモのつる切り、機械を用いた選別作業などを就労継続支援A型事業所に委託。
- 苗切り作業では、苗を切るだけの者、切った苗をまとめてコンテナに入れる者に分けるなど、作業の細分化を実施。
- 令和5年度には委託先の就労継続支援A型事業所から利用者1名を直接雇用。



水はけの良い火山灰土のほ場

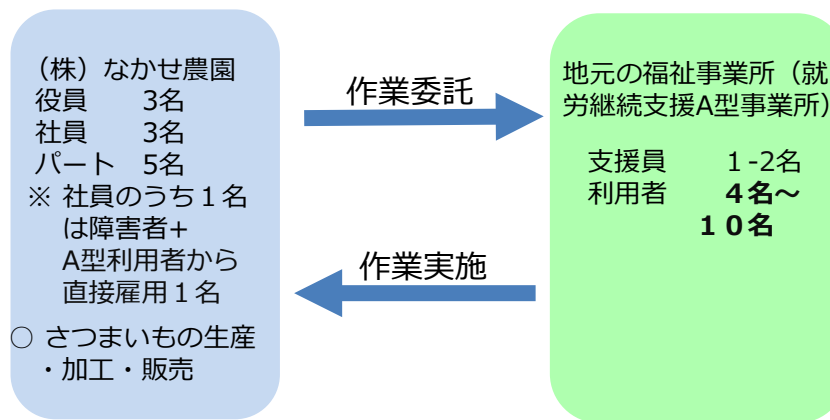


貯蔵倉庫の内部



芋の重さによる選別作業

体制図



取組の成果

- 人材確保が困難な中、就労支援施設との連携により経営規模拡大。
平成25年 さつまいも栽培面積 3ha → 10年後 令和5年 13ha
- 就労支援事業所に作業を依頼することにより、障害者4名（主に知的2名、精神1名、身体1名※雇用契約はないため人員変動あり）が年間6～8ヶ月程度作業に従事。多くの障害者に長期間、就労の場を提供。

所在地▶熊本県菊池郡大津町大字岩坂578

連絡先▶TEL:096-221-7829 Email:nakase.nouen.info@gmail.com

ウェブサイト▶<https://www.nakase-nouen.com>

【取組のプロセス】

平成23年

きっかけ

規模拡大を考えるも、挿苗など手間が掛かる作業が多く、労力の確保が困難であったことから、特別支援学校の学生を職場実習で受け入れたところ、仕事の飲み込みが早く、障害者を貴重な人材と認識したことから農福連携の取組を開始

後継者がUターン就農、経営規模を拡大

- さつまいも栽培30年の専業農家の後継者としてUターン就農。
- 儲かる農業の模索と規模拡大、通年出荷への取組。



就農当初の代表（左）と前代表（右）

平成28年

熊本地震で被災した倉庫の新規整備と法人化 障害者の職場研修受入と雇用開始

- さつまいもを保存していた「土蔵」が熊本地震で被災したことを機に、最新式のさつまいも専用貯蔵庫へ整備するとともに、経営基盤の強化、信用度の向上等のために法人化を実施。
- 特別支援学校の学生を職場実習として受け入れ、その成果から雇用を開始。



最新式のさつまいも専用貯蔵庫

平成29年

2年の準備期間を経て、GLOBAL G.A.P.を認証取得。 障害者就労の増加と栽培面積の拡大

- 平成12年から取り組む輸出、大手スーパーへの出荷に係る製品安全認知が向上。
- きめ細かな作業行程管理により、作業が効率化され、結果として規模拡大に繋がる。
- 作業行程の細分化管理等と規模拡大が相まって、障害者の就労が増加。
- テストマーケティングも兼ねてシンガポールや台湾での輸出版売にも取り組む。
- 作業の見通しのための年間作業ごとの行程図表を掲示



見える化した作業マニュアル

今後の
展望

障害者事業部門としてのノウハウ確立と独立 （就労継続施設の自社設立）

- ITを活用した各作業ごとのマニュアル等の整備による生産性向上。
- 自社での就労継続支援施設等設立による障害者雇用拡大と幅広い人材活躍の受け皿になることを目指す。



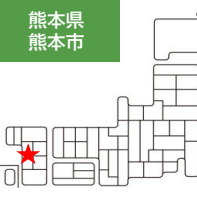
社内感謝祭（芋掘り大会）の様子

更新年度：R5

荒廃農地の活用、6次産業化の取組、障害者・刑務所出所者の職員としての雇用を行うとともに、農福連携の地域協議会を設立し、農業法人・JAや企業と連携して、地域ぐるみの取組を実施。

福祉事業所

熊本県
熊本市



基本情報

設立: H28年/農福連携取組開始: H28年

概要

主力商品

(農作物)だいこん、じゃがいも、たまねぎ きくいも 等
(加工品)水餃子

体制図

NPO法人熊本福祉会
(就労継続支援A型事業所: 翔 就労継続支援B型事業所: 煌)

- 施設外就労受託 (近隣農家→熊本福祉会)
- 熊本県より受託(熊本県農福連携コーディネーター(マッチング事業))
- 自社農場栽培(市内スーパー等への販売・イベントにての販売・無人販売所開設)
- 6次産業化に向けた商品開発(地元食材を使った“モッチャん水餃子”の開発・販売)
- 熊本県農福連携協議会 主幹団体としての同会運営・農福連携の促進

TEL / 096-353-7700

Mail / fukushikai-syou@athena.ocn.ne.jp

きつかけ

H28年

人を耕す

地域を耕す

未来を耕す

取組

成果

障害者が農業を通じて自分らしさを見つける姿を見て、農業と福祉に特化した事業所を設立。理念は「自然との共生」で、「生産性ではどこにも負けない」をスローガンに活動を拡大。

- 障害者が草刈り機等を使用する時には、当初は職員がそばで支援・指導等を行っていたが、日々の修練により、単独での作業を実現。また、気候が良い時期には「ごろりTIME」を設けるなど、作業時における健康管理にも留意。
- 福岡矯正管区と連携し、刑務所出所者を職員に採用するほか、利用者、出所者等も職員として採用し、様々な障害を持つ仲間と、笑顔で偏見のない職場環境を実現。

- 他県の農福連携に取り組む事業者との連携で、きくいもの栽培・販売を始め、地元スーパー、青果企業等の安定した新たな販路を確保。
- 農福連携に係るイベントのほか、地元のお祭り等、地域のイベントに参加。

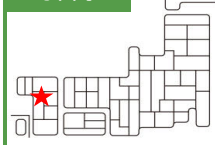
- 自社農場で生産した野菜を使用した「モッチャん水餃子」を地元のアナウンサーや中華料理店とのコラボで開発。地域や福岡の百貨店へ出店。
- 熊本福祉会が発起人となり、「熊本県農福連携協議会」を設立。地域の農福連携の普及拡大を目指し、第一生命、JA、熊本県農業法人協会等と連携。

平均賃金月額	事業所の利用者	売上高	農地面積
A型: 69,763円(H30) →84,895円(R5)	A型: 9人(H30) →14人(R5) B型: 10人(R4) →17人(R5)	1,122千円(H30) →18,520千円(R5)	20a(R4) →70a(R5)

- 農業を通じた就労支援により、業績が向上した結果、就労継続支援A型事業所利用者をR3年に3名、R5年に1名を職員として雇用。現在は農業のエキスパートとして活躍。
- ほ場はすべて点在するかつての休耕地・荒廃農地であり、地域の農業拡大に寄与。
- 県内の大学と連携し、規格外野菜を活用した子ども食堂への食事提供を実施。

荒廃農地を活用した大豆栽培、豆腐製造、おからを餌にした養鶏事業、食肉加工、直売所やレストランの運営等の多角化により、障害特性に応じて働ける場を創出。

福祉事業所

熊本県
小国町

きっかけ

H
28
年

地域の基幹産業であった農林業や地場産業の衰退に伴い、障害者の居場所づくりのため、荒廃農地を活用した6次産業化プロジェクトを開始。循環型農業と共生社会の確立が目標。

人を耕す

- 希少大豆の栽培、鶏卵事業、食肉加工、OEM提携による納豆・味噌の販売、シフォンケーキ等の製造販売、「農福連携レストラン」や農産物直売所の運営等、多彩な作業工程と販路拡大により、障害者の所得向上を実現。
- 作業工程ごとのリーダー配置により役割分担を明確にするとともに、障害特性に応じてわかりやすい指示・提示を行うことなどにより、安全や健康管理に努め、働きやすい職場環境を維持。

地域を耕す

- 小国町で発見された在来種「おぐに黒大豆」を継承して量産化。きな粉や地元レストランの食材として活用。
- 小国町産業課とも連携し、農福連携事業を通じた雇用創出と地域活性化の取組を実施。

未来を耕す

- 豆腐等製造時に排出されるおからやレストランでの残飯、規格外の野菜などを餌に鶏卵事業を開始。鶏糞は、荒廃農地に散布。廃鶏は、食肉用に加工して活用する循環型農業を確立。
- 地域の高齢者と障害者それぞれが支え合う地域共生社会の仕組みを実現。

基本情報

設立:H2年/農福連携取組開始:H28年

取得認証等:認定農業者

取組

成果

概要

主力商品

(農作物)大豆(すずかれん、おぐに黒大豆)、鶏卵 等
(加工品)納豆、味噌、シフォンケーキ、豆乳プリン 等

特徴的な取組

環境保全型農業

体制図

社会福祉法人
小国町社会福祉協議会

第二悠愛グループホーム事業所

(小国郷内に21か所が点在)

就労継続支援B型事業所

大豆工房小国のゆめ

農福連携レストラン天空の豆畑、平飼い

農園おぐにん卵、悠工房食肉加工場

就労継続支援A型事業所

就労支援センター陽なたぼっこ

農福連携レストランすずかれん、農産物

直売所結菱(むすびし)、移動販売車

陽なたぼっこ号

平均賃金・工賃月額

A型:45,058円(H28)
→120,611円(R5)
B型:10,000円(H28)
→25,316円(R5)

障害者数

A型:4人(H28)
→16人(R5)
B型:19人(H28)
→36人(R5)

売上高

A型:15,725千円(H28)
→96,052千円(R5)
B型:6,879千円(H28)
→31,347千円(R5)

荒廃農地借用面積

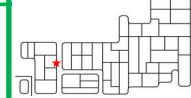
1ha(H28)
→10ha(R5)

- 荒廃農地を活用した希少大豆の栽培で、大豆製品の6次産業化とブランド化に取り組むことで収益性や生産性の向上を図る。
- 製材所に2名、県立高校に1名の一般就労を実現。就労継続支援B型事業所からA型事業所に3名が移籍。
- 「農福連携レストラン」、平飼い農園、移動販売車、食肉加工事業と年々事業を拡大。
- 交流人口は取組開始当初の3,000人からR5年には148,000人に増加。

TEL / 0967-46-2616 Mail / mukuno@with-yuuuui.or.jp

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

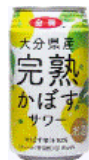
更新年度:R7.1



全農おおいたがコーディネーターとして福祉事業所とJA及び農家とのマッチングを実施。障害者に対応の難しい作業をサポートする体制を整備し、障害者活躍の場の拡大と定着を実現。

基本情報

- 所在地：大分県大分市
- 団体名：全国農業協同組合連合会大分県本部
- 選定表彰：（菜果野アグリ：更生保護事業の表彰（福岡県・佐賀県より））
ノウフク・アワード2020
審査員特別賞
- 主力商品：完熟かぼすサワー（収穫作業）
にら豚丼（収穫・調製作業）
※福祉事業所と菜果野アグリで作業を実施。
- 取得認証等：－



取組の概要

- 農業者の高齢化・後継者不足・地方人口減少に伴う労働力不足に対応するため、農家からの労働力支援依頼に対し、共同受注窓口及び(株)菜果野アグリ（登録者（主婦、学生、フリーター、副業者等）を労働力支援が必要な農家の農場等に作業スタッフを送り出す事業を実施）と連携し作業調整を実施。
- 障害者に対応の難しい作業については(株)菜果野アグリを活用することを推進し、農家のニーズを満たす外部委託のシステムを構築。
- 障害者等が農作業に従事するための仕組みづくり並びに農作業を細分化し農業に関わるハードルを下げ、全ての国民が農業参加できる体制を整備するための事業構築を実施。



全農おおいたホームページ（労働力支援）

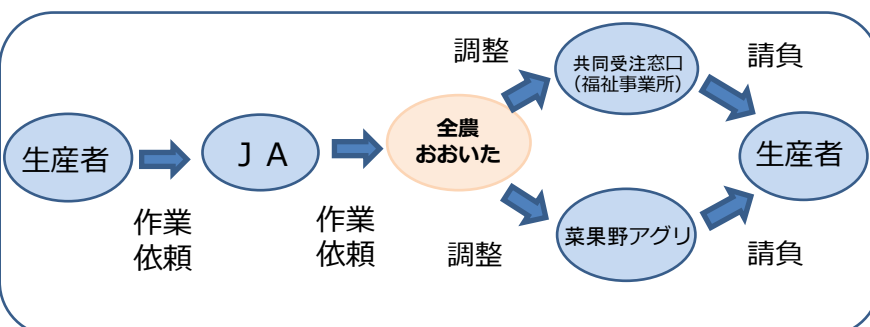


ピーマン出荷調製作業（JA選果場）



にらのそぐり調製作業（大分市）

体制図



- 農作業依頼に対して全農おおいたがコーディネートを実施。

取組の成果

- 農福連携と補完し合う形で、障害者が担えない作業は(株)菜果野アグリスタッフがサポートすることで障害者の活躍の場が大幅に拡大。
- コロナ禍で困窮する方々や他業界からの人材を受け入れることで国内農業に対する国民理解の醸成に寄与。

	平成29年度	令和4年度
作業件数（年間）	31件	34件
受注金額（年間）	2,141万円	2,770万円



所在地 ▶ 大分県大分市大字古国府六丁目4番1号

連絡先 ▶ TEL：097-535-7041 FAX：097-545-0487 E-mail：hisatsune-toshimichi@zennoh.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.ot.zennoh.or.jp>

【取組のプロセス】

平成27年

農福連携を含めた
トータルでの労働
力支援を開始

きっかけ

農業者の高齢化・後継者不足・地方人口減少に伴う
労働力不足に対応するため農福連携の取組を開始

(株)菜果野アグリとパートナー企業とした労働力支援事業を実施

- 平成27年より、農業者の高齢化・後継者不足・地方の人口減少に伴う労働力不足に対応するため、(株)菜果野アグリをパートナー企業とした労働力支援事業に取り組む。



トマトの選別作業の様子

平成30年

J Aと年間契約を
締結している福祉
事業所は40事業所
に

内閣府「地方創生」事例調査選定

- 障害者に対応の難しい作業については(株)菜果野アグリを活用することを全農おおいたが推進し、農家のニーズを満たす外部委託のシステムが完成。これにより障害者活躍の場の拡大と定着に繋がった。



甘藷の収穫作業の様子

令和元年

生活困窮者就労訓
練事業所の認可の
取得

大分子ども支援ネットとの連携

- 平成31年より、おおいた青少年総合相談所における支援プログラムとし、労働力支援事業の紹介や、体験を実施。
- 令和元年より、「生活困窮者就労訓練事業所」の許可の取得に取り組み、地方行政生活困窮窓口との連携を実施。



ピーマンの選果作業の様子

今後の
展望

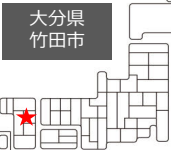
田園回帰を可能にすることによる地方創生

- 人口減少化の日本において、生産年齢人口にカウントされる人材は全て戦力とする必要がある。農業に関わるハードルを下げ、働くハードルを下げることで一直線に専業農家を目指せない人でも田園回帰を可能とする。



みかんの選果作業の様子

更新年度：R5

大分県
竹田市

障害者の周年就労が可能な水耕栽培に取り組むとともに、障害者や高齢者、地域住民が集えるコミュニティセンターの運営や、交通手段を持たない高齢者への無料送迎、地域のお祭りの復活など様々な地域貢献活動を実施。

基本情報

- 所在地：大分県大分市
(福祉農場コロニー久住所在地：大分県竹田市)
- 団体名：社会福祉法人博愛会
- 選定表彰：
 - 平成18年 大分合同新聞文化賞
(株)大分合同新聞社主催
 - 平成24年 毎日社会福祉顕彰
(毎日新聞(株))
 - 平成27年 藍綬褒章 (理事長個人 内閣府)
 - 令和3年 愛護福祉賞 ((公財)日本知的障害者福祉協会)
- 主力商品：お米、サラダ野菜、ドレッシング、ジャム、漬物等

取組の概要

- 障害者が周年就労可能なサラダ野菜の水耕栽培等に取り組むとともに、生産した農産物を活用した食品加工場やレストラン、地域コミュニティセンター等で、障害者の特性に合った活動場所と就労先を創出。
- 職員や利用者が主体となり、地域住民の高齢化により10年以上開催されていなかった地域のお祭りを「都野夏まつり」として復活させるなど、地域貢献事業等にも積極的に取り組む。
- 交通手段を持たない高齢者を対象とした無料送迎車をNPO法人や他の社会福祉法人と連携して巡回させ、地域コミュニティセンターでの入浴の機会や、地域食材を利用した弁当の提供などを実施。



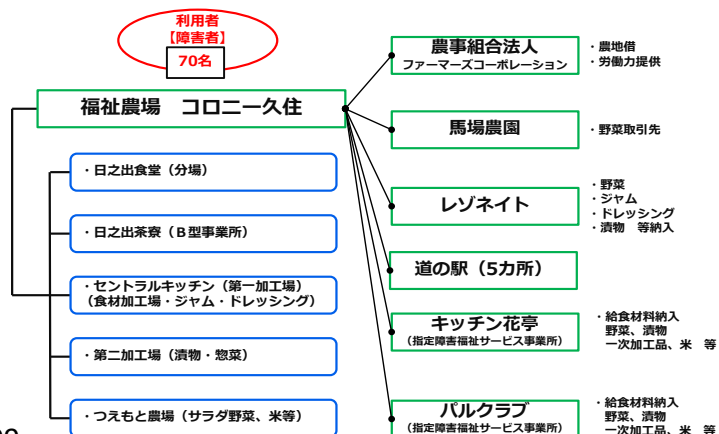
水耕栽培による野菜生産



「都野夏まつり」の様子

セントラルキッチン
での農産物の加工生産した農産品を利用した
無料惣菜バイキング

体制図



取組の成果

- 障害者の特性に合った活動・就労先の創出、周年就労が可能なハウスでの水耕栽培品目への取組等により、工賃の向上及び就労者が増加。
- 農産物加工では6次産業化と「日乃出」ブランド化を行い、直営レストランなどへの食材提供とも相まって、農福連携関連の売上が大幅に増加。

	取組当初	令和6年 (見込み)
・年間工賃 (千円)	36	3,540
・年間従事障害者 (人)	60	730
・売上総額 (千円)	3,252	43,500

所在地 ▶ 大分県竹田市久住町大字有氏896番地14 (福祉農場コロニー久住)

連絡先 ▶ TEL:0974-77-2344 E-mail:pal-2941@oct-net.ne.jp

ウェブサイト ▶ <https://hakuai-oita.com/>

【取組のプロセス】

昭和50年

利用者と職員は農作物を自分達の手で育て、収穫する喜びを知る。当初の主力生産品となったトマトは1日の出荷量3トン規模に

きっかけ

「農福連携」という言葉がない昭和50年に「知的障害の方にとって大自然の中で、季節の移ろいを肌で感じることができる農業が最も心身の安寧につながる。」との考えで、竹田市久住町に「生産する福祉」を目指して入所授産施設「福祉農場コロニー久住」を開設

平成9年

高齢・過疎化の進む地域に対し、農産物を活かして地域貢献事業として何かできることは？

農産物加工場（漬物加工）が完成

- 当初の主力生産品である高原トマト、白菜、大根、高菜等の農産物を漬物加工品として商品化。
- ジャムやドレッシングの製造販売も開始し、地元の道の駅や直営店舗での販売や、法人内外のレストランや給食センターに提供。



漬物の製造シールを貼る利用者

平成28年

人口減少により飲食店が衰退していく中、皆が憩える場所をつくり町を元気づけたい！

コロニー久住分場「日乃出食堂」を開設

- 「み～んなが元気に集う食卓」をコンセプトに、地域の中心地に「障害者、高齢者、地域住民が気軽に集える健康レストラン」としてオープン。
- 施設農場や地元の新鮮食材を加工しお惣菜として提供する「おばんざい」が大好評に！



古民家の趣の日乃出食堂の内観

令和2年

NPO法人ククルを設立。日乃出茶寮を拠点として地域高齢者の無料送迎活動に取り組む

地域交流サロン「日乃出茶寮」（就労継続支援B型事業所）を開設

- 「ひとりになっても安心して暮らせる町づくり」を目指し、障害者支援施設が運営するコミュニティサロンでは高齢者、障害者、こどもたちが天然温泉や食事、カラオケ、各種教室等を利用できるよう整備。
- 館内のホールではコンサートや大衆演劇公演を開催するほか、こども食堂等のイベントを毎月開催。



日乃出茶寮の舞台・ホール内観

今後の展望

～ 町をもっと元気に、にぎやかに ～

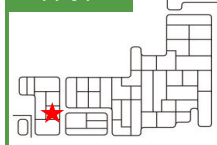
- 学校、病院など公共施設が集中している「コンパクトシティ」の利点を活かし、法人の各施設が地域社会と有機的、人材的に連携し、地域活性化に向けた取組を進める。
- 「町をもっと元気に、にぎやかに」をモットーに、障害者が地域の一員として自分らしい暮らしをしながら町の活性化に携わるといった地域共生型の社会を目指す。



日乃出茶寮でのイベントの様子

障害者就労施設が農業生産法人を立ち上げ、障害者・矯正施設出身者の就労や生活の安定に向けた支援を行うとともに、認定農業者として地域の農業に貢献。

福祉事業所

宮崎県
宮崎市

きつかけ

H
24
年

障害者の就労安定と賃金向上のため、全員が関われる作業を模索。農業法人の経営者に相談し、全利用者が力を発揮できる農業に興味を持ち、新たに農業生産法人を設立。

人を耕す

- 障害者がピアサポーターとして一般就労し、自らの経験を活かして障害者のサポートを実施。
 - 公認心理師を配置し、矯正施設出身者を受け入れ、居場所作りを支援。
 - CoCoRoグループ*の一般社団法人誠樹会が運営する放課後等デイサービスの児童が農作業を手伝い、大人と子どもの相互理解が進展。
- *STEP UPに加え、誠樹会、CoCoRoファームを含むグループ。

地域を耕す

- 収穫時には、近隣農家等に人材を派遣し、人手不足の解消に貢献。
- CoCoRoファームは認定農業者として、地域の生産部会にも参加し、地域の農業に貢献。
- 中山間地域の荒廃農地を積極的に借り入れ、水田面積は5年で30aから380aに増加。
- 地域の農業高校や大学を対象に、農福連携の現場研修を実施。

未来を耕す

- 障害者や矯正施設出身者が農産物の生産行程のすべてに関わり、就労訓練をすることにより、一般就労を実現するとともに、矯正施設出身者の社会復帰を支援。
- 日本財団の「職親プロジェクト」に参加し、矯正施設在籍者に農業の選択肢を発信。

基本情報

設立: H24年/農福連携取組開始: H28年

取得認証等: 認定農業者、ノアフクJAS

(農業生産法人CoCoRoファーム)

取組

成果

主力商品

(農作物)ズッキーニ、なす、ミニトマト、米 等

概要

CoCoRoグループ
組織体制図

農業生産法人
株式会社CoCoRoファーム
・ズッキーニ・ミニトマト等野菜の栽培
・食品加工
・ふれあい農園
・野菜の流通・販売・仲卸

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

連携

体制図

0985(35)2910 / cocoro352910@gmail.com /

<https://www.cocoro-group.net/>

農作業にかかわる障害者数

25名(R5)

矯正施設出身者数

0人(H28)
→10人(R5)

一般就労人数

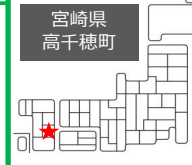
0人(H28)
→3人(R5)

農地面積

70a(H28)
→450a(R5)

- 地域のスーパーや飲食店に農産物を納品し、農福連携のパネルと共に陳列されるなど、農福連携の普及に寄与。
- 宮崎刑務所の農福連携意見交換会に出席するとともに、宮崎少年鑑別所及び小倉少年鑑別支所で開催された地域援助推進協議会において講師として農福連携に関する講演を実施するなど、矯正施設出身者が地域で活躍できる人材であることを発信。

生産者の高齢化等により産地の維持・継続が懸念される中で、自社での原木椎茸栽培のほか、地域の約600軒の生産者から原木椎茸を買い取り、福祉施設に委託して乾燥椎茸等に加工する農福連携を推進することで、地域の課題解決に取り組む。



基本情報

- 所在地：宮崎県西臼杵郡高千穂町
- 団体名：株式会社 杉本商店
- 選定表彰：
 - 令和2年 サステナアワード 2020大賞
(農林水産省、消費者庁、環境省)
 - 令和3年 サステナアワード 2021みどりの食料システム推進賞 (同上)
 - 令和4年 宮崎県中小企業大賞 (宮崎県)
 - 令和5年 第24回グリーン購入大賞農林水産大臣賞 (グリーン購入ネットワーク)
- 主力商品：本格椎茸粉、椎茸どんこ等
- 取得認証等：ISO22000認証登録、宮崎県未来成長企業認証、有機JAS認証、GFPアンバサダー認定

取組の概要

- 農家の高齢化により椎茸の駒打ち等の作業負担が大きくなっていた中で、椎茸の原木栽培及び加工を福祉施設へ委託することで、障害者の所得向上が実現。現在は委託先の福祉施設が6団体7施設に拡大。
- 地域の約600軒の生産者からも原木椎茸を買い取り、地域の生産者と福祉施設を繋ぐことで、高齢農家の作業負担軽減と障害者の働く場の創出に寄与。
- 農福連携により生産された原木椎茸はサステナブルな取組として海外で高く評価され、令和5年10月時点で累計23か国へ輸出。



椎茸の駒打ち作業風景

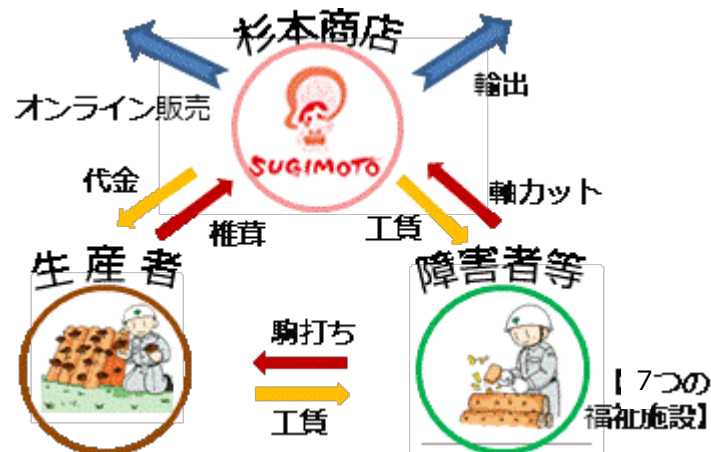


無農薬原木栽培される椎茸



オンライン販売
(本格椎茸粉と椎茸どんこ)

体制図



取組の成果

- 障害者の特性に合った作業分担と就労環境への配慮により、出勤率が向上し、賃金も増加している。
- こうした成果により、委託する福祉施設も拡大し、施設外就労者数の増加や輸出額の増加にも繋がっている。

	平成30年	令和5年 (見込み)
・施設外就労者数 (人)	187	604
・障害者平均工賃月額 (円)	9,692	16,856
・輸 出 額 (万円)	280	1,500

所在地 ▶ 宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井458-28

連絡先 ▶ TEL:0982-72-3456 E-mail:kazuhide@sugimoto.co

ウェブサイト ▶ <https://sugimoto.co/>

【取組のプロセス】

ものづくり補助金を活用し、設備を更新

平成29年

九州産本格椎茸粉発売、障害者支援施設2カ所目が栽培と作業をスタート

令和元年

宮崎県特産林産物輸出促進対策事業の活用

令和3年

地元小学校での食育授業開始

令和4年

県内障害者支援施設6事業所（7作業所）と協業。

特産林産物×福祉×輸出の取組が評価され、ノウフク・アワード2023フレッシュ賞のほか、グリーン購入大賞・農林水産大臣賞も受賞

今後の展望

きっかけ

椎茸生産者の高齢化と干し椎茸の軸切作業における人材不足の中、障害者支援施設の職員から作業の依頼があったことから、農福連携の取組を開始

地域未来牽引企業の認定を受ける

- 高齢生産者の負担軽減のため 自伐による原木供給事業を開始。
- 原木を杉本商店が供給し、福祉施設が植菌から出荷までを行う全作業委託を開始。
- 将来の有機農産物需要の増加と差別化を考え、「杉本商店有機出荷者協議会」を設立。
- 世界で唯一、原木栽培椎茸でKOSHER認証（ユダヤ教の食品規定に基づいた生産プロセスが順守されていることを証明する認証制度）を取得。
- 初の海外展示会（FOODTAIPEI, BERLIN FOOD WEEK）へ出展し、海外市場では持続可能性が重要であることに気づく。



地域未来牽引企業認定証

年間輸出高が4,500万円を超える

- 作業量増加に伴い、新たに県内2カ所の福祉施設に椎茸の軸切作業を委託。
- コロナ禍の影響でオンライン商談が中心の中、動画を活用した情報発信で輸出事業が伸長。
- サステナアワード2020大賞、農林水産技術会議事務局賞受賞。
- パウダー製造体制を強化、アシストスーツの実証実験スタート、林野庁研修講師を開始。
- プラントベース市場への挑戦を始める。



輸出品商談会の様子

GFPアンバサダーの認証を受ける

- 全作業委託する福祉施設が3カ所、一部作業を委託する福祉施設が3カ所に拡大。
- ASIAN CONFLUENCE（インドでの国際会議）に登壇（オンライン）。
- 持続可能な組織形成の為、「杉本商店幸せQC活動」開始。
- 海苔養殖で不要となったグラスファイバーポールを活用したアップサイクルな栽培をスタート。サステナブル☆セレクション三つ星認定。
- 在インド日本大使公邸にてイベントを開催。



GFPアンバサダー認証式

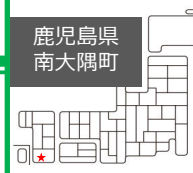
～生産者と共に、この地で働けることに感謝し、常にお客様の健康を願い、安全で使いやすい食材を開発し、提供し続ける～

- 販路拡大のために、世界最大のベジタリアン国、インドへの輸出に向けた商談を進める。
- 商品価値を高めるために、宮崎県を原木栽培椎茸における「世界最大の有機JAS拠点」とする。
- このため、現在、有機・非有機が混在している種駒を、令和12年をめどに全数有機に切り替えるとともに、有機JAS取得のための生産者講習の受講を促す。
- 上記の需要拡大とあわせて、供給拡大のための農福連携を進めていく。



関係者とともに未来を目指す

更新年度：R5



昭和47年の設立以来、知的障害者を中心とした施設利用者が20種類以上の農産物の生産、養豚等の畜産から解体・食肉加工、直売所(兼)レストランの接客に至る様々な作業に従事し、安定した高賃金を実現。

基本情報

- 所在地：鹿児島県南大隅町
- 団体名：社会福祉法人白鳩会 花の木農場
- 選定表彰：
 - ・ H27 ディスカバー農山漁村の宝 第2回 全国選定（主催：農林水産省）
 - ・ H29 南日本文化賞（主催：南日本新聞社）
 - ・ H29 瑞宝双光章（中村隆重）（秋の勲章）
 - ・ ノウフク・アワード2020 グランプリ
 - ・ G A P 実践大賞 2022(一財)日本GAP協会 etc.
- 主力商品：茶、にんにく等20種類以上の生鮮野菜、精肉・食肉加工品、総菜、パン etc.
- 取得認証等：ノウフクJAS、有機JAS、ASIAGAP

取組の概要

- 20種類以上の農産物を生産し、障害者等の通年作業を確保。また、繁殖牛や養豚の畜産も行い、解体精肉、食肉加工品は併設した直売所(兼)レストランで販売・提供。
- 法人内約180名のうち、農作業に従事する利用者は86名(R5)。茶の乗用摘採機や管理機等の操作技術を持った障害者も多数存在。
- 矯正施設出所者及び少年院出院者も在籍し、過去の受入や退所者を含めると30名以上の受入実績。近年は法務省及び矯正施設等とともに矯正と農業・福祉が抱える課題（ギャップ）の解消のために連携を強化。



茶の収穫、機械操縦を重度障害者が実施

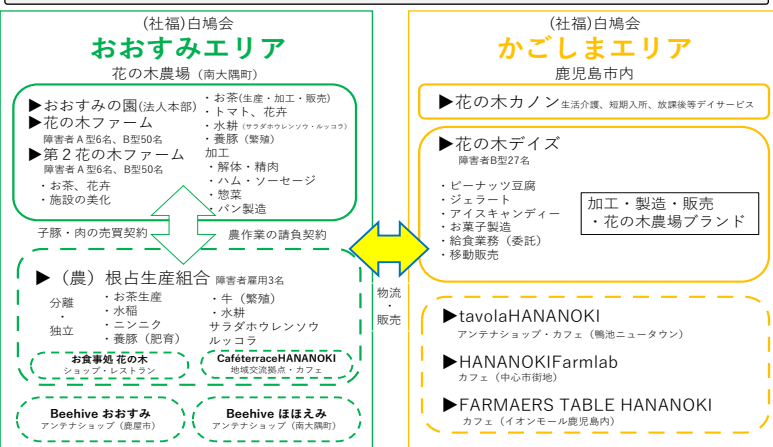


にんにく皮むき作業の様子



加工場での作業

体制図



取組の成果

- 利用者にはA型平均10.5万円/月、B型平均2.0万円/月と県内平均を上回る賃金を実現(R5)。
- 地域の農地を引き受け38haにまで拡大。うち11.9haは荒廃農地を再生し地域農業の維持にも貢献。
- 茶事業では有機JASやASIAGAPの認証も取得し、障害者とともに持続可能な農業にも挑戦。農場内に開設した直売所兼レストランは地域住民と障害者の交流拠点機能も担っている。

所在地 ▶ 鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北9466-8

連絡先 ▶ TEL : 0994-27-4737 E-mail : jusan@hananokifarm.jp

ウェブサイト ▶ <http://shirahatokai.jp>

【取組のプロセス】

養蚕業の衰退（山林・桑畑を手放す所有者も）
地域活力の低下

昭和47年

きっかけ

障害者が活動をするための場所として農場をつくりたいという漠然としたコンセプトがあったなか、養蚕業が斜陽になった時期に山林（桑畑）を手放す話を聞いたことから購入を決意

昭和48年

農業生産面の強化

おおすみの園開所、農場設立へ

- 昭和47年、当時地場産業が第一次産業しかない地域ということもあり、野菜を作り、豚を育てることが目の前の仕事。障害者へ就労の場を提供するために農場運営を開始。
- 昭和53年 農業を本格化させるために農事組合法人根占生産組合を関連組織として別途設立。農産物を生産拡大。
- 昭和56年 大隅授産センター（現・花の木ファーム）を開所。
- 平成10年からアンテナショップBeehiveを大隅エリア、鹿児島エリアで展開。



にんにくのほ場準備

平成12年

高齢化により地域農業者が減少。
障害者が地域農業を支える労働力として期待される。

6次産業化への取組、交流拠点機能の強化など事業の展開期へ

- 平成16年にレストラン花の木、平成17年に花の木大豆工房を開所。食品加工等の分野でも障害者の働く場の提供を開始するとともに住民と障害者の交流拠点としても機能。
- 近年は、ジェラート店、ホットドック店、カフェテリア等を県内大型店舗内などに続々オープンしており、障害者のみならず健常者の雇用の場を提供しており、地域へ貢献。



母豚の出産介助作業

平成27年

農山漁村振興交付金福祉農園等支援事業の活用（H29～30）

持続可能な農業にも挑戦

- 平成29年には有機JAS、令和元年度にはASIAGAP、令和5年にはノウフクJASを取得。
- 令和5年現在では、福祉サービスの利用者は約230名となり、様々な形で賃金・工賃を得て働く利用者は102名に。



茶園の管理作業

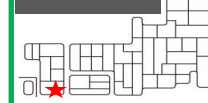
今後の展望

発達上の課題を持つ触法者の受入に向けて法務省との連携

- 花の木農場では法務省の関連施設との連携を強化し、矯正と農業・福祉の双方が抱える課題（ギャップ）を解消していく方法を議論し、対象少年の処遇に関するケース会議を重ね、相互交流や矯正展の出店などを通じて、持続的に法務省との関係性を築いている。
- 実際に中津少年学院を出院した少年を受け入れるなど具体的な形となるケースも出てきており、今後お互いの連携はますます進むと考えられる。



田植え後の補植作業



障害者等の“症状の再燃予防をしながら、苦労や喜びの経験を奪わないようなサポートをする”ことをモットーに就労支援施設を創設。施設利用者目線の就労環境改善と地域農家との連携を通じて、地域農業の維持・荒廃農地発生防止及び就労先の拡大、工賃向上に取り組む。

基本情報

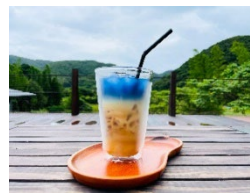
- 所在地：鹿児島県龍郷町
- 団体名：株式会社リーフエッジ
- 選定表彰：
 - ノウフク・アワード2021優秀賞
 - ディスカバー農山漁村の宝2022九州地区
 - ESSEふるさとグランプリ2023金賞
- 主力商品：
 - ジェラート、ハーブティー、精油 等
- 取得認証等：－

取組の概要

- 近隣農家手伝い（マンゴー、たんかんなど）や自家栽培ハーブをジェラートやハーブティーに加工し、敷地内ジェラテリア等で販売。食品加工残渣や余剰作物を蒸留することで精油や芳香蒸留水の生産も実施しており、工賃向上や職業選択の拡大に結び付けている。
- 近隣農家に施設外就労で手伝いに行くだけでなく、農家の手が空く時期には農家をアルバイトとして雇用するなど、相互の関係を強めている。



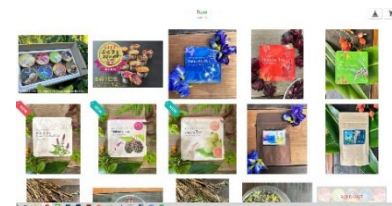
たんかん収穫作業



ハーブを活かしたドリンク

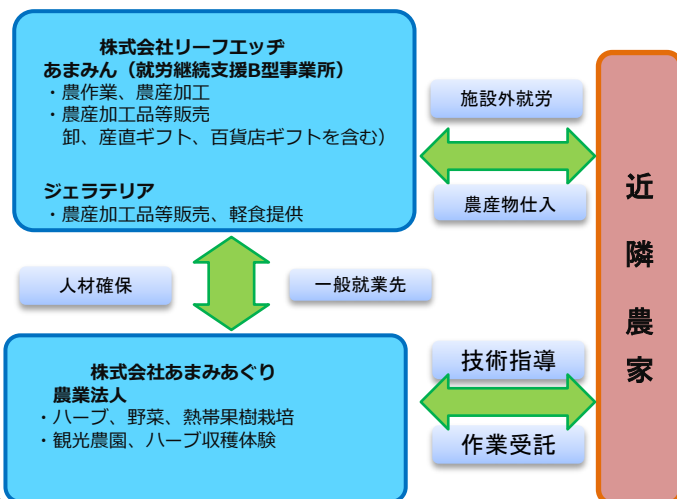


カップジェラート（17種）



ECサイト

体制図



取組の成果

- 利用者の興味や障害特性に合わせた仕事のマッチング重視により、作業環境の改善や作業効率の向上につながり、利用者が増加。
- | | 平成29年 | 5年間 | 令和4年 | |
|----------------------------|-------|-----|--------|---------|
| 施設利用者 | 5名 | → | 34名 | （6.8倍） |
| ジェラート等販売
（ジェラートは令和元年開始） | 120万円 | → | 2300万円 | （19.1倍） |
- 食品加工（ジェラート、ハーブティー等）とECサイト構築により販売が増加し、工賃が向上。

所在地 ▶ 鹿児島県大島郡龍郷町大勝578

連絡先 ▶ TEL:0997(62)5260 E-mail:reefedge.amami@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://reefedge.co.jp/>

【取組のプロセス】

平成28年

近隣農家の手伝い
開始

きっかけ

「雨の日も仕事がある」ことに魅力を感じ、平成28年の就労継続支援B型事業所開設と同時に、農福連携の取組を開始

平成29年

ハーブティー用の
ハーブ栽培開始

農作業の労働対価は、農作物で！Win-winの関係を構築

- 「奄美の農業は台風との闘い。なかなか儲からない。」との声を聞き、労働対価は農家の金銭的負担が少ない「農作物」で受け取り、対価にはB級品も含めることで通常よりも多めにいただき、付加価値の高い加工農産物の製造を行うことで工賃支払いに繋げる。



令和元年

ジェラート製造棟
の建設

利用者の興味や障害特性に合わせた仕事のマッチング

- 精神障害者を中心に5～16名が農作業を実施し、室内作業希望の利用者が食品加工に取り組みとともに、対人恐怖の方は在宅就労にてECサイトの作成管理、筋ジストロフィーの方や脳卒中罹病後遺症の方はジェラートパッケージのデザイン作成を実施するなど、利用者の特性に合わせて作業の割振りを実施。
- 農作業は、作業強度別のグループを編成し、ハードになりすぎず物足りなくない作業量に調整するなど工夫。

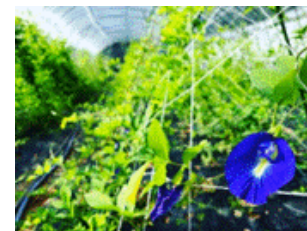


令和3年

一般就労への円滑
な移行へ

施設利用者の快適な作業環境と一般就労の場の提供

- 体調が安定した利用者の一般就労への円滑な移行に向け、ハーブと熱帯果樹の生産をメインとする農業法人(株)あまみあぐりを設立。
- 仕事の選択肢を増やすため、ジェラート販売の直営店として「ジェラテリア」を建設。2階は休憩室とし、短時間しか就労困難な利用者の出勤率向上を図る。
- 食品加工残渣や余剰作物を有効活用するために蒸留器を導入、精油と芳香蒸留水の製造開始。さらに残った残渣は畑に返し、島内循環型農業に取り組む。



今後の
展望

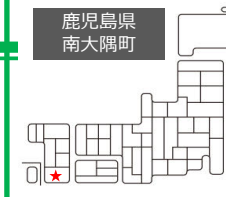
誰も置いていかな
い施設へ

農福連携を観光や自然環境保全に活かし、持続可能な地域づくりに

- 増え続ける荒廃農地を活用し、障害者と共に新たな地域特産品づくりを目指す。
- 今後の人口減少下でも持続可能な地域づくりを目指し、農福連携を他産業とつなげていく。
- スタッフや利用者などみんなが潤い、心地よく過ごせるやさしい企業となる。



更新年度：R5



農福連携により地域課題を解消するため、大隅地域で農福連携を実践している団体を結びつけるプラットフォームとして令和3年に設立し、活動を開始。現在では農福連携実践団体だけではなく企業、JA、畜産、林業など40団体が加入。

基本情報

- 所在地：鹿児島県南大隅町
- 団体名：大隅半島ノウフクコンソーシアム
- 選定表彰：－
- 主力商品：－
- 取得認証等：－



フードロス対策& 農福連携「小さいプロジェクト」

取組の概要

- 会員事業所及び支援機関、行政、アドバイザーと連携を図りながら、各種研修会や先進事例調査のほか、コンソーシアム内での共同栽培や、お試しノウフク、マッチング活動等を実施。
- ノウフクJAS取得に向けた研修会の開催など、農産物の付加価値向上・販売力強化に向けた取組も実施。
- 令和5年度は上記の活動のほか、農家向けの研修会の開催や、観光庁の補助事業を活用したインバウンド事業を行い、「農福連携×観光」の視点からも活動を展開。



インバウンドモニターツアー

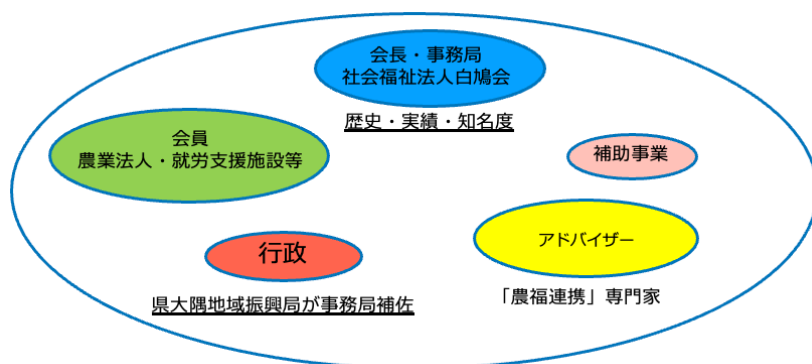


ノウフクJAS研修会



じゃがいもノウフク【過疎地援農】

体制図



取組の成果

- お試しノウフクや共同農場の試験的な運営により、担い手不足の過疎地への援農、農福連携による就労の機会を創出するとともに、障害者だけではなく生活困窮者等にも農業をはじめきっかけづくりを提供。
- 会員間で新たに施設外就労契約が結ばれたり、会員同士のビジネスも生まれ、地域の農林水産業の維持・発展が図られている。
- 令和5年度現在、会員である2団体がノウフクJAS認証を取得。
- 廃棄されている「小さい」をコンソーシアム全体で収穫し販売するフードロス対策を実施することにより、福祉事業所の選択肢が増え、小さいを使った販路拡大、子ども食堂などにも活用されるなど、多様な繋がりを創出。
- 様々な活動によりコンソーシアムの存在が地域に認知され、設立当初15団体だった会員が現在40団体に増加。

所在地 ▶ 鹿児島県肝属郡錦江町神川-3306-4 2階図書室（事務局）

連絡先 ▶ TEL:080-5257-3091 E-mail:nouhuku.tagayasu@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://onc2021.com/>

【取組のプロセス】

事業所の利用者や担当者の高齢化、地域の働き手の減少、急激な荒廃農地の増加、地域活力の低下

～令和2年

プラットフォーム（コンソーシアム）設立提案

令和2年10月

ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業の活用

令和3年5月

中山間地農業ルネッサンス推進事業の活用（令和4年）

令和4年

令和5年

今後の展望

きっかけ

令和2年10月、鹿児島県大隅地域振興局担当者と福祉施設職員から、「大隅半島農福連携プラットフォーム設立構想」が提案され、賛同した現コンソーシアムの役員はじめ関係機関が連携し、課題共有を開始

農福連携の実践者同士のつながりを創出したい

- 大隅地域で農福連携に取り組んでいる事業所等は、それぞれの事業所の取組は既知であったものの、点的な取組が多く、各事業所が抱える課題などを共有する状況にはなかった。
- それぞれの事業所が抱える課題や将来に対する考え方は、農福連携の枠組みに止まらず、地域をどのように振興していくかという広範なものであった。
- （社福）白鳩会がノウフク・アワード2020でグランプリ獲得し大隅半島に注目が集まる。

広範な地域課題解決のための多様な連携を

- 「大隅半島農福連携プラットフォーム設立構想」に賛同する仲間づくりとコンソーシアム設立に向けた県の補助事業申請書類の作成を開始。農業サイド、福祉サイド双方が持つ人的ネットワークを最大限活用し、15事業所が参画（現在は農業法人9社、林業1社、畜産1社、福祉事業所11法人、農業・福祉どちらも運営2団体、企業4社、2団体、10地方公共団体の計40団体及びアドバイザー5名で運営。）。

大隅半島ノウフクコンソーシアムを設立、本格活動開始

- 令和3年5月に設立総会を開催し、その後、役員会の定期開催、優良事例共有会、大隅半島における課題共有ワークショップ、ノウフクJAS研修会、経営に活かすGAP研修会、ブランディング・マーケティング研修会、先進事例調査、お試しノウフク、請負作業時の標準工賃策定検討等を行う。
- 令和4年度は、引き続き ①農福連携に関する研修・先進事例調査研修、②ノウフクJAS取得支援及びノウフク産品のブランディング、③農福連携新規取組の掘り起こし・マッチング・取組支援、④会員事業所による共同栽培農場の運営、⑤地域における請負作業標準工賃の策定を重点取組事項として取り組む。
- 令和5年度は例年の活動の続けながら農家向けの研修会や観光庁の補助事業を活用したインバウンド事業をおこない、「農福連携×観光」の視点からも活動を展開。

～誰一人取り残さない大隅半島の課題解決プラットフォームに！～

- 大隅半島の農福連携推進はもちろん、会員各社の課題解決を図る一方、新たに農福連携に取り組みたい事業者へのサポート等をおこなうことで、大隅半島の農業振興にも寄与していく。
- 大隅半島の課題は農業と福祉以外にも多く存在する。これらの地域課題の中にも、農福連携を基軸にすることによって解決できる可能性が広がる。



行政・JA・地元農家との打合せ



令和3年5月設立総会後の記念撮影



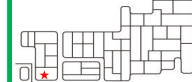
令和4年度も活動スタート



実践を学ぶ関西方面への視察研修



小さいプロジェクトのフライヤー



食品加工会社として農業に取り組む中で、人材確保が困難であったことや、地域に働く意欲のある障害者が多いことを知り、自社の課題解決と障害者の労働の場を確保するため、就労支援事業所を開設し農福連携に取り組む。

基本情報

- 所在地：鹿児島県南さつま市
- 団体名：株式会社南風ベジファーム
- 選定表彰：
 - ・ H29「ディスカバー農山漁村」九州農政局選定（主催：九州農政局）
 - ・ H30 そうしんビジネスイノベーション大賞（主催：鹿児島相互信用金庫）
 - ・ 令和元年「ディスカバー農山漁村」第6回全国選定（主催：農林水産省）
 - ・ R3「かごしま・人・まち・デザイン賞」（主催：鹿児島県）
 - ・ R3「第16回南日本経済賞」（主催：南日本新聞社）
- 主力商品：赤しそ・高菜・梅・だいこん・らっきょう・にんにく・ハーブ
- 取得認証等：認定農業者、6次化事業者

取組の概要

- 約6haの農地で赤しそ、高菜、じゃがいも、だいこん等を生産。生産した農産物は、自社で惣菜等に加工・販売。高菜の一部は、外部の漬物業者へも販売。
- さつまいもの苗植え作業は、機械化が難しく人手を要するため、人手の確保が困難になった近隣農業者から、約10ha分を請け負い、障害者等の15名が作業。
- 自社で生産する高菜は、収穫作業の機械化が難しく、人手を要するが、収穫以外の作業は機械化が可能なため、さつまいもの苗植えを請け負っている近隣農業者に約5ha分の収穫以外の作業を依頼。



かんしょの苗植え作業



赤しその栽培風景

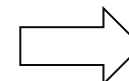


白菜の加工作業

取組の成果

- 漬物等の加工技術を有し、販路が確保されていることもあり、着実に野菜生産、加工事業の規模拡大が図られ、利用者数が増加。

平成29年
農作業等に係わる利用者数 21名



令和4年
45名

- 人手を要する芋苗植付け作業や、高菜の収穫作業を近隣農家から請け負い、機械化が可能な作業を近隣農家に依頼する相互の協力体制を構築。

体制図

農業生産法人
(作物栽培、食品製造、
農福連携カフェ)
【株式会社 南風ベジファーム】

農作業及び
食品製造作
業受発注

障害者就労支援事業所
「南風i」
【一般社団法人 南風】

連携

作業受委託
惣菜販売等

地 域

スーパ－

農 家

所在地 ▶ 鹿児島県南さつま市金峰町高橋3075-35

連絡先 ▶ TEL:0993-77-3932 E-mail: contact@nanpuu-vege.com

ウェブサイト ▶ <http://www.nanpuu-vege.com/>

【取組のプロセス】

平成25年

・原料農産物を作る農家が高齢化等により減少。
・安定経営のためには自社生産が必要。

きっかけ

農業法人の事業拡大の課題であった「人手不足」解決のため、就労継続支援事業所を開設し、農作業等を中心に通年就労（施設外就労）の場を提供

農業生産法人株式会社南風ベジファーム設立

- 食品加工の会社を営んでいたが、原料となる農産物を作る農家が高齢化等により減少することを危惧。
- 自社農地で農産物生産を行うことで、6次産業化の取組をスタート。

平成27年

・業務を拡大したくても人手不足がネック。
・求人を出しても応募者は来ない。

就労継続支援事業所「南風i」を開設

- 農業部門、加工部門とも規模拡大を検討したが、人材確保が困難であった。
- 一方、地域には働く意欲のある障害者が多いことを知り、課題解決と障害者の労働意欲を繋ぐ就労支援事業所を社屋内に開設（H27年利用者：A型14名、B型4名）。

平成30年

・他の人がやりたがらないけど、誰かが『欲しい』と思っていることを行う！

第2加工場等を整備し、自社栽培野菜を使った総菜製造にも着手

- 地元スーパーの「総菜コーナーに納品する会社が県内に無い。」という声に応え、自社栽培野菜を用いた惣菜製造にも着手。
- 総菜販売が加わり農産物販売等も含め、売り上げが約53百万円（H29）⇒約182百万円（H30）に増加。

令和2年

・「南風ベジファームって、何の会社なの？」の問いかけに見える形で答えるための取組を実施

農福連携カフェ「agricafe nanpuu」開設、福祉部門を一般社団法人化

- 会社のイメージを明確化するために農福連携カフェをオープン。
- カフェにはショップも併設し、地域製品の販売により、地域農業等との連携強化。
- 福祉部門を分社化、一般社団法人南風を設立し、障害者福祉サービス部門を強化。

今後の展望

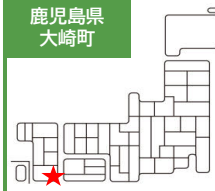
地域とともに成長する会社を目指し、障害者とともに挑戦！

- コロナ禍で来店者が減少した農福連携カフェを“with コロナ下”での“食の提供拠点”としてテイクアウト中心の形態に改装。
- 加えて、経営基盤強化のため農産物加工場を増設し、スーパー向け総菜提供強化と就労機会の確保を実施。
- 地域では、各業種で人手不足が続く中、障害者は仕事を探しており、今後も「会社も障害者も地域もWin-Winの関係を築く。」をモットーに、農福連携を基軸に事業展開を図る。



障害者就労施設、加工業者等が連携し、地域の高齢者や障害者が放置竹林の整備や竹炭の製造を行うモデルを創出。竹炭を土壌改良材として活用したさつまいもの加工により収益化を実現。

その他

鹿児島県
大崎町

きっかけ

R4年

聴覚障害のある地域おこし研究員の「高齢者や障害者の就労意欲を引き出し、社会参加と生きがいづくりの場を作り出す」という呼びかけに応じ、関係者で連携体制を構築。

人を耕す

- 竹林整備に参加する障害者の工賃は、全国平均を上回る時給600円(R5)に向上。参加者からは「考えながら竹を切るところが楽しかった」などの声があり、障害者の働きがいに寄与。
- 障害者や高齢者等のべ267名(R5)が放置竹林の整備や竹材加工の担い手として活躍。
- 「竹林整備」という共通の仕事をする事で、協働が促進される包摂の空間を創出。

地域を耕す

- 無価値とされた竹を竹炭として販売するほか、特産品「愛生会の干し芋」の製造販売によりさつまいもの収益性を高め、大崎町への経済効果の向上に貢献。
- 輸入物価高騰を背景とした畜産農家における敷料としての竹炭活用のほか、食品加工業者や酒造会社と連携した商品開発等を行い、地域活性化に貢献。
- R5年からは幼竹を塩蔵メンマにする取組をスタート。

未来を耕す

- 施設利用者や地域住民が、放置竹林の拡大という社会的課題を解決するという共通の目標を共有し、必要な存在としての「役割」を取得・遂行・承認される機会を創出。
- 県広報、新聞への掲載等、積極的な情報発信により、他地域への普及展開を目指す。

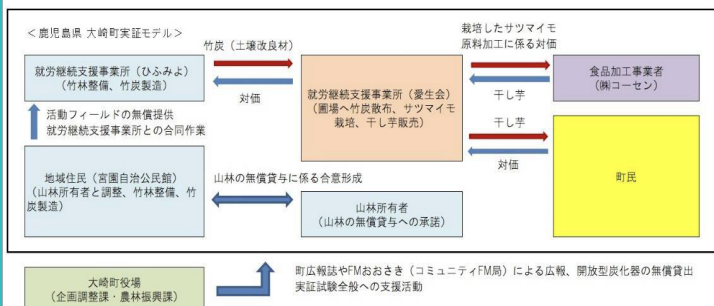
基本情報

設立: R4年/農福連携取組開始: R4年

概要

主力商品
(農作物) さつまいも、たけのこ
(加工品) 干し芋、焼酎、塩蔵メンマ

体制図



成果

障害者就労施設数

2事業所(R4)
→3事業所(R5)

竹林整備に関わる障害者数

267人/ 20日(R5)
※のべ人数

放置竹林の解消面積

30a(R4)
→60a(R5)

竹炭散布面積

5a(R4)
→33a(R5)

- 地域の高齢者からは、「今後も来てほしい」などの声があり、竹林整備に参加する障害者を仲間として受け入れている。
- 干し芋の売上高は、256,000円(R4)から854,800円(R5)に増加。
- ひきこもりの状態にある者が、2か月間参加し、その後農業関連会社に一般就労。
- 障害者や高齢者等が放置竹林の整備や竹材加工の担い手となり、放置竹林の解消を実現。
- 竹福商連携による竹の資源化モデルが薩摩川内市、山口県山口市にも波及。

にたいどっこい 代表 中野ひとみ

TEL / 090-5284-8704 Mail / nitaidokkoi@gmail.com

視察受入れ: 可 / 報道機関受入れ: 可

更新年度: R7.1